



ジオパークガイドで有名観光地をより深く楽しく！

JR西日本「WEST EXPRESS 銀河」における「橋杭岩」ガイドの取り組み事例

南紀熊野ジオパークガイドの会

上野一夫，芝崎浩子，中川幸，福本三智代，神保圭志，石丸美穂子，
福辻京子，平松美樹，長尾雄二郎，長尾陽子，西浦康代，仲江孝丸，尾添宏進，山本妙子，築山省仁
南紀熊野ジオパーク推進協議会
山東弘幸

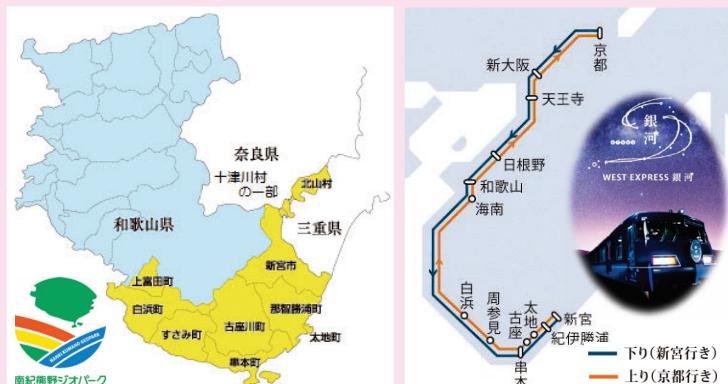
1.はじめに

南紀熊野ジオパークが2014年、日本ジオーパークに認定されて、今年で7年目になる。2019年の再認定を経て、同年夏には串本町潮岬に拠点施設となる『南紀熊野ジオパークセンター』が開館した。同施設は『本州最南端・潮岬』という立地、入館無料という好条件もあり、入館者数は累計10万人を超えてい。特に昨年から今年にかけてはコロナ禍のため、県内の各学校が修学旅行先を当地に変更、見学先の一つとなった同施設は大変賑わった。ただ、当会の本来の業務であるガイド事業はコロナ感染症の増減によって、大きな影響を受けた。

そんな現状の中、今年初めにJR西日本の特別急行列車『WEST EXPRESS 銀河』紀南コースの旅行商品に、ジオパークガイドの案内によるジオサイト『橋杭岩』観光の組み込みが決定。以降、当会はJR西日本と調整を重ね、より良い『橋杭岩観光』の形を模索してきた。結果、午前6～8時という短時間かつ特殊な時間帯でありながら、ジオパークガイドだけでなく地域行政、周辺の民間業者が一体となりお客様への『おもてなし』を実施している。今回は、運行2カ月目に入ったこの取り組みの内容を報告する。

2.南紀熊野ジオパークと『WEST EXPRESS 銀河』について

南紀熊野ジオパークは、プレートの沈み込みに伴って生み出された3つの大地、それらが作る独特的な景観、温暖湿潤な気候がもたらす多種多様な動植物、そしてそこから生まれた熊野信仰など、数多くの優れた自然や文化を体感できるところ。エリアは、和歌山県の新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、奈良県十津川村の一部の10市町村である（下図）。



『WEST EXPRESS 銀河』（以降『銀河』）はJR西日本が運行している特別急行列車である。列車が運行されるエリアを『宇宙』に、その中の魅力的な地域を『星』になぞらえ、星々を結ぶ列車という意味が込められており、地域との対話と連携を通じ、観光を中心として西日本各エリアの活性化に貢献することを運行目的の一つとして掲げている。かつての寝台列車の名前や路線を継いだ夜行列車でもあり、2020年秋の運行区間である山陰方面では途中、鳥取・島根の各停車駅での「おもてなし」も多彩で、好評を博した。



古座川橋梁から撮影した「WEST EXPRESS 銀河」

～JR西日本 和歌山営業部長のコメント～
たくさんの魅力がある南紀熊野に「銀河」で来ていただきたい

3.『橋杭岩』と実際のガイドの流れ

『橋杭岩』は肩書の多い場所である。吉野熊野国立公園の一部、国の名勝、国指定天然記念物、日本の朝日百選etc. 最近ではTV番組や様々なプロモーションビデオで取り上げられることも多く、日本の絶景スポットとしての評判も高い。2013年に道の駅が開業してからはコロナ禍の現在でも他府県ナンバーの車が絶えない町内屈指の有名観光地である。

～橋杭岩とは～

南北約850mにわたり、幅約15mの橋げたのような立岩が直線状に並ぶ。その数大小40余り。周辺の磯に散らばる多くの軽石と潮の満ち引きによって、独特の景観美を楽しめる場所。



橋杭岩でのガイド



橋杭岩の日の出

そんな『橋杭岩』であるから、ただ眺め写真を撮るだけでも十分満足できる。だが、南紀熊野ジオパークのジオサイトとして、地球の営みと共に絶景の成り立ちを知れば、たとえ短時間でもより深く楽しんでいただくことが可能である。そこで昨年末頃にJR西日本から当会に問い合わせをいただき、今年初めから関係各機関・事業者と共に複数回の調整会議や下見、予行等を実施した。その成果として、現在次のような流れで『銀河』における橋杭岩観光が行われている（時間は目安）。

①午前5時50分：ガイド橋杭岩着
お客様の朝食を提供されているレストラン「空海」へ、ガイドに必要な物品を確保しに行く。同時に1班お客様の朝食時に配布する銀河キークーラー（後述）の引換券とジオパークセンターのパンフレットなどを設置する。



②串本町役場が管理する道の駅の休憩施設を開錠、お出迎え準備。

③



④6時30分：1班到着、朝食会場へ、バスはピストンで串本駅へ戻る

⑤



⑥6時40分：2班到着、休憩施設2階の展望スペースにて橋杭岩についてガイド（約10分）、終了後は自由時間、個別に質問を受けること。

⑦



⑧7時20分：1班ガイド終了。駅へ戻るバスをお見送り。⑨7時30分：2班朝食終了。バスをお見送り。



オマケ：ご案内したお客様の乗る8時串本駅発の『銀河』を、町内の各所で撮影。

左から串本駅7時50分
橋杭岩展望所（先客あり）8時3分
古座橋8時10分



⑩翌日まで日誌を提出。



4. 地域の関係各所との協働、及びジオパークガイドの活動

今回の橋杭岩観光には地域の各機関が複数関係している。まずは串本町役場。JR西日本からのご希望もありガイドは基本、橋杭岩全体の眺望が楽しめる道の駅の休憩施設2階で行うことになっている。悪天候時の対応や空調、ジオパークガイド有志が監修作成した資料展示もあるため、同施設が使えることは大きな利点であるが、鍵の管理は通常、串本町役場の管轄である。これを当会ガイドに一任いただいた。詳細なマニュアル作成と事前の情報共有によって、今のところ大きなトラブルもなく、順調に運営できている。



銀河特製 漁師の朝ごはん

お味噌汁の中にはカモノガテ！

次に朝食会場であるレストラン空海、道の駅施設の鍵を始めガイドの必要物品の保管場所としての利用を了承くださった。さらにジオパーク関係パンフの配布、ガイド分の朝食もお客様と同じものが用意されている。「週2回、早朝の団体客は大変だが、だいぶ慣れてきました。『カメノテ』の食べ方、いつも説明します（苦笑）」

『レストラン空海』の隣にある、老舗菓子舗『儀平』も、この橋杭岩観光に合わせ早朝営業を実施してくださっている。看板商品の『うすかわ饅頭』の試食を店舗前で行い、朝食が早く終わったお客様などに振舞っておられる。「帰り（翌日の新宮発上りの銀河）では串本駅ホームで出張販売していますが、ここで試食した方は比較的買ってくれる感じです」

地元業者ではないが、日本旅行の添乗員や熊野御坊南海バスの運転手から頂いた「定常的にある仕事はコロナ禍の今、これぐらいなので、皆で分け合ってやっています。まさに、ありがとうございます『銀河』です」とのお声は同じ観光に携わる者として、共感するばかりであった。



蒸したてのうすかわ饅頭は最高！



引換券を持ってオリジナルキーをGET！

また、南紀熊野ジオパークの魅力をもっと全国の皆さんに知っていただくための企画として『銀河オリジナルキーをGET！』のプレゼントも行っている。橋杭岩ガイドの際に配られる引換券を持って、銀河運行期間内に同施設を訪れる、紀州材の間伐材を使った、数量限定、手作りのオリジナルキーをもらえる。お客様の中には、東京や福岡などの遠方から来られた方や引換後は、館内ガイドの案内で南紀熊野の大地の成り立ちに興味を持つお客様が多く見られた。

本事業は当会所属のガイド15名で担当している。本来のガイド受付時間外の早朝であり、ガイド1名でご案内するお客様数が通常より多いにもかかわらず（本来は10名につきガイド1人だが、平均して30~40名程度のお客様となっている）ガイドそれぞれが南紀熊野の魅力を発信するため、精一杯の『おもてなし』を行っている。その想いを地域の方々と共に、銀河のお客様に伝えられることは、地域の盛り上がりに寄与すると思われる。

南紀熊野へ訪れてくれた方々だけに、その魅力を少し伝えたと自負しています（上野一夫）

銀河ガイドを行う橋杭岩道の駅2階の展示（タペストリーや岩石展示）は私達が手掛けたものなので、活用できるようになってうれしく思います（仲江孝丸）

銀河のお客様はガイドの話をよく聞いてくれて、マナーがとてもいいですね！（尾添宏進）

銀河のお客様は、朝1番にもかかわらず、地形の成り立ちという地味な話を熱心に聞いてくださり、大変ありがとうございます。もっとわかりやすく楽しくご案内しなければと思ってます（長尾陽子）

橋杭岩を見て普通なら、変わった岩だね、という印象だけで終わりそうな一般の観光のお客様に、橋杭岩の成り立ちを少しでもお伝えできたのが嬉しい（神保圭志）

銀河のおかげで初めて南エリアのガイドができました。やって良かったです！（山本妙子）

夢の電車とコラボして、地域が広がり、ガイドもつながり、相乗効果素晴らしい！！！（福本三智代）

お客様は静か、ジオより鉄道かなあ。翌日、白浜駅に行ったのですが、ガイドをしたお客様に会え喜んでもらいました（築山省仁）

朝早いガイドでしたが、普段のガイド時間では見れない朝日と橋杭岩の景色の中、爽やかで気持ちの良い時間の経験でした。また車椅子の方も見学できて良いコースだと思いました。（西浦康代）

奇岩を前にしたお客様の果てしない疑問が

そうだったのかと云う納得感に変わると、ガイドする醍醐味を味わっています。やみつきになります（長尾雄二郎）

5. 今後むけて

ジオパークガイドは橋杭岩の話だけをするのではなく、美しい景観を生んだ南紀熊野全体の大地の成り立ちと、その上で育まれた地域の歴史、文化の解説も行う。それによって、地域に興味を持ち面白いと感じてくれる人「次はもっと長く滞在し、紀南の他の場所にも行ってみたい」と願う人を増やせるのではないか？それがジオパークにおける地域振興の一つの道であると考える。ただ、現在この『銀河』の取り組みにおいて、アンケートなどでお客様のご感想をうかがう手段を設けていない。今後の課題としてそれらの実施の必要性を挙げて、結びとしたい。